

総合防災訓練 参加報告

2011年12月7日 三重大学全体で行われた総合防災訓練に、工学部学生参加者としての視点からの報告をします。

大学の報告はこちら。<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2011/12/post-202.html> (12/8 リンク)

● 津波避難訓練

東海・東南海・南海地震が同時発生し、三重大学は6mの津波に襲われるという想定での避難訓練でした。学部で避難場所が分かれており、工学部の避難経路は下の地図の通りです。約3km、徒歩で30～40分の道のりを避難経路として設定してあります。川を渡り、信号機のない交通量の多い交差点を通り、線路を越えて行きます。



実際に徒歩で避難した様子を時系列に沿って振り返ってみます。

- 9:10 地震同時発生
- 9:20 放送による避難指示



放送を聞き集まった参加者。避難は徒歩組と自転車組に分かれます。

9 : 30 避難開始



警察や消防の方々も連携した大掛かりな訓練でした。



交通量が多い狭い交差点には信号機がなく、とても混雑しました。また、人数が多いため横断歩道では度々赤信号で人が分断されました。

10 : 00 頃 自転車で避難した人たちが帰ってくる場所に、行き道の半ば程で遭遇。
自転車は徒歩の半分以下の時間で避難することができます。

10 : 20 避難場所到着



避難場所に指定されているこの土地は、海拔 23m。チェックを受けて、来た道に戻ります。

11 : 00 学校帰着

● 救護訓練

地震で負傷者が出たという想定で、学内に設けられた応急救護所まで搬送する訓練にも参加しました。負傷者役の学生を担架で運びます。



救護訓練は負傷者を受け入れる側を特に対象とした訓練だと思いますが、負傷者をどこに連れて行くのか確認することが出来ました。

■ 訓練参加を通して

実際に避難経路を歩くことで、避難時の交通状況がどうなるかといった普段では考えないことを考えるきっかけとなりました。また、地震で橋は損傷しないか、家の塀等が壊れて道路を塞がないか、等多くの不安要素を見つけることができました。事前にそのような危険個所を把握できていれば、有事の際に回避することが可能になります。今後、自宅や下宿先からの避難経路と危険個所を確認するといった活動を行えたら、と思います。

学内での救護訓練の搬送の道中も、普段は気にならないような段差や車止めが障害物となることが分かりました。車いすを使用する想定での参加者は、3段ほどの階段がある場所で立ち上がらねばならず、学内のバリアフリーの経路の確認の必要性も感じました。

大学全体で行われた大規模な訓練でしたが、大学の性質上学生が全員参加することが出来ない現状も見えました。学生、職員合わせて1万弱もの人が、実際に学校から避難する人はそれより少ないですが、避難するとなった時、各自が落ち着いて行動しないと大変危険だと強く思いました。日頃からの防災意識の向上がやはり必要だと再認識しました。

防災意識の向上、自分の身を守る術を身に付け仲間と助け合えるようになり、その後の復興にもすぐ対応して動けるよう備える、その役割を果たす団体としてMUS-netは活動していきたいと思います。

報告作成者：小柳津
作成日：2011年12月8日